

バルプ工場の廃液が流れ込み、深刻な水質汚濁が進んでいた高知市の江ノ口川や浦戸湾を救おうと市民有志が立ち上がった「生コン事件」が6月9日で発生から40年を迎える。それを前に5日、「高知市を水辺の街へ」をテーマにしたシンポジウムが、高知市農人町のサウスブリーズホテルで開かれる。

高知市生コン事件から40年

「水辺」テーマシンポジウム

来月5日

同市旭町3丁目のバルプ工場 罰金刑を受けたが、同工場も事から、江ノ口川に日量1万ト以 件翌年に閉鎖された。

上もの廃液が流入。川の自然は 事件の概要説明に続き、町田 壊され、浦戸湾も「死の海」と 吉彦・高知大名誉教授が「希少 化した。 種の宝庫、浦戸湾」、陣内秀信

そうした状況を見かねた市民 グループが決起。「浦戸湾を守 かし、水に親しむまちづくり」 会」の故・山崎圭次会長ら4 の演題で講演。パネルディスカ 人が1971年6月9日早朝、 ツシヨンも開かれる。

工場の排水管に生コンを流し込 開演は午後1時から。参加無 んだ。事件は住民運動の機運を 料。問い合わせは「高生連」内 高め、反公害運動としても全国 の同会(088・880・07 的に注目された。山崎会長らは 01)へ。